



港彰介さんは1977年に写専を卒業してミナト写真館に勤務。息子さんの洋尚さんは2004年の写専卒で勤務。親子で地元の学校アルバムの撮影制作をメインにしながら大奮闘。親子共に自然な笑顔が爽やか。残暑が厳しいなか二人のカメラマンは今日も子どもたちの笑顔を追いかける。

港 彰介 × 順子 × 洋尚 × 真希 × 丈 × 仁

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.37

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY



学校アルバム撮影で子どもたちの笑顔を撮れるのが最高の喜び。

普段は父と息子はあまりしゃべらないようだ。しかし、学校の撮影に出かけると二人には「あうん」の呼吸が通じ合い、アイコンタクトで会話があるという。親子で同じ仕事ができるということは本当に幸せなことです。

港彰介(60)さんは腰が低い。いつも彰介さんから挨拶をしていただく。今日こそはこちらから挨拶をしようと思っても、すでに彰介さんの方の頭が下がっている。優しくて真面目なお人柄である。息子さんの洋尚(33)さんも同じような人柄である。父親の背中を見ながら育ったのだろう。「港さん親子は真面目ですね」「それしか取り柄がないですから」(笑)

「彰介さんの写専時代はどうでしたか?」「楽しかったですよ。写専が阿倍野にあった時代で、暗室作業や型モノの撮影、課題制作に真剣に取り組んだことを思い出します。仕上がった写真を同級生たちと見せ合ってお互いに批評し合った日々でした。写真に関しては、みんな熱かったですね」「洋尚さんの頃はどうか?」「校舎は北加賀屋でした。学校の前をトラックが通ると教室が揺れるんですよ(笑)。デジタルの一眼レフカメラが普及してきた時代でしたね。デジタルの授業があるなか、一方ではフィルムカ

メラでの撮影・現像・暗室作業といった、デジタルとアナログの両方を学べた欲張りな時代でした。でもこの両方が学べたことが今は非常に役に立っています」写専時代は写真の技術だけでなく、心の成長も学んだとお二人は語る。

彰介さんの趣味は「メダカの観察と養殖です(笑)」「可愛いんですよメダカは。メダカを孫が楽しみに見えています。そんな孫の姿を見るのも癒しタイムですね」「お孫さんは丈(3)くん和仁(2ヶ月)くん。洋尚さんの趣味は?」「ないんです(笑)。子どもたちと遊ぶのが一番の楽しみです」メダカを見る奥様の順子(56)さんと洋尚さんの奥様の真希(30)さんたちの、輪になったファミリーが浮かびます。

最近では家族で困った出来事もなければ、驚いた出来事もなく平穏なようだが、次男(仁くん)が誕生したことにより家族に笑顔が増えたそうです。子どもはタカラですね。(は)